

高橋喜惣勝 たかはし きそう 歌人、小説家。明治四十二年（二月）二十八日長崎縣大草郡富岡生れ。昭和二十七年六月十一日歿（一九一〇—五二）。筆名國枝治、村尾淳、黒岩扇二。法政大學中退。昭和八年歌誌『短歌評論』のプロレタリア短歌を發表。翌年櫻華社に勤務、雑誌『懸賞界』の編輯に従事、また文泉閣を經營。十年新短歌クラブ結成を主導、十二年歌誌『短歌時代』を創刊。この間小説にも手き染め、雑誌『文藝首都』同人となる（同誌十九年八月號に國枝治の名で發表した「技術史」は芥川賞候補に擧げられた）。十五年歌誌『潮』、翌年『新胎』を創刊してゐる。

著書、年刊歌集『新短歌』一九二七年（合著・新短歌クラブ編、昭和十一年十一月十日第一書房）、『生活派年刊歌集・第五輯』（合著・短歌時代社編、昭和十四年十一月）『自短歌時代社、廣文館發賣）、歌集『天草』（昭和二十四年四月一日小峰書店）等。

